

シラチャ校だより

泰日協会学校シラチャ校
2025. 3. 8



教育コミュニティスクールへの進化を目指して

シラチャ日本人学校 校長 藤枝茂雄

いよいよ、今年度も大詰めに迎えました。この学校だよりが一年間の最後のものです。この便りの後半には、本校を退任される先生方のあいさつも掲載されていますが、どの先生も、先進的で提案性のある素晴らしい教育を日々心掛けてくださいました。是非、次の職場や新天地でもご活躍されるよう、願っております。



残り少なくなった学校生活の中で、「大和」「はやと」と名付けたペットボトルのいかだの浮力の違いを調べる「実験」を楽しむ中学部の9年生(2025年3月)

さて、今年度進めてきた学校組織マネジメントについてですが、今、私には、来年度はさらに一歩踏みこんだ形で進めたいと思っている領域があります。それは、児童生徒、教員、保護者を巻き込んだ、「双方向型かつ対話型のコミュニケーション」です。

今年度の「学校だより」の中でも述べてきたように、本校の子供たちには、人前で物怖じせず発表する姿勢や、質問のクオリティを意識して発言する態度が育ってきています。先生方も、意図的に子供たちの発言の場を作ろうと工夫を凝らし、

小グループでのスライド発表による「ポスターセッション」(ポスタープレゼンテーション)や、「TED×Sriracha」のように、会場にいる子供たちや参観の保護者の方々との対話や質疑応答の機会を積極的に創設しています。日系企業の事業所への校外学習に際しても、その場に行き話だけを聞くだけにとどまらず、事前によく吟味された質問を送付し、また事後には、現場での体験を補充・深化するためのゲストティーチャーを招いた授業なども実施しています。



「タイ人を和食で健康にするには」というヤマモリ社から示されたミッションに対して、年度末に同社から3名の社員の方々をゲストに迎えて学習成果を発表する小学部の5年生（2025年3月）

⇒子供たちが発案した「味噌煮込みうどん」がヤマモリ社のHPに掲載されることになりました。

日本の学校とのオンライン交流についても、単発交流は行わず、3回程度の「目的を持ったセットの交流活動」という形で実施してきました。それによって、単発交流にありがちな「両校の子供たちの高揚感が先走って、期待した内容の深まりが得られない」ということがなくなり、大阪府にある、前シラチャ校派遣教員の先生が勤務している小学校との交流の2回目以降は、まるで同じ学びの仲間同士のような落ち着きのある、内容的にもしっかりとしたオンライン交流を実現することができました。

また、参観日などの発表でも、授業担当の先生がQRコードを準備して、保護者が自らの携帯端末からQRコードを読み取り、アンケート入力フォームへと進むコメントの収集方法も本校では全く珍しくなくなっています。

このような、子供たち、教員、日系協力企業の方々の「対話型・双方向型コミュニケーション」に向けた状況の転換を踏まえて、来年度からは、参観に来校された保護者の方々にも、積極的に「対話型・双方向型の参観者への転換」を図っていただきたいと思っています。

そして、学校(児童生徒と教員)、地域(校外学習の対象としての日系企業)、家庭(保護者)という3つの要素のコミュニケーションの在り方が「対話型・双方向型」に進化することによって、在外教育施設における新しい「教育コミュニティスクール」の形を創設していきたいというのが現在の私の気持ちです。

従来の伝統的な参観授業では、わが子の様子を中心に見ていただいていたと思いますが、教育コミュニティスクール型の参観では、わが子ではない子供たちとの質疑応答に積極的に参加していただきたいわけです。それによって、子供たちが自信を得て、学級風土がよりいっそう対話的になっていくことで、わが子の積極性や発表力が増していくというプラスのスパイラルが出来上がるのではないかと考えています。

学校で毎日顔を合わせている人々とは違う第三者に褒められたり、意見交換に加わってもらえたりすることは、大きなプラスの効果を生み出します。また、子供との対話を通じた保護者同士の関係性も、巡り巡って学級の子供どうしの調和を高めることに作用すると思います。来年度、このような学校の教育風土のちょっとした改革を、本校の教育に携わる者がチームワークよく進めて行けたら良いと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

本年度は、大変お世話になりました。ありがとうございました。

「シラチャにしか残っていない伝統行事 ゴーンカーオ祭り」

ディレクター ニオン アガニットプロム

毎年ソクラーン祭りの後、4月19日から21日まで、シラチャスッカパーブ公園で開催される行事があります。それは「ゴーンカーオ祭り」です。

「ゴーンカーオ祭り」は、シラチャの漁業に携わる人々の伝統的な信仰にもとづく行事です。彼らは漁に出る前に、いろいろな霊に敬意を払います。それは霊が自分たちの家庭や財産に害を及ぼさないようにするためです。4月ごろの漁が少ない時期に、村人たちは浜辺に集まり、土地の守り神や精霊、身寄りのない霊にも食物やお菓子をもち寄って供えます。祭りの後には、お供えした食べ物は家に持ち帰らず、参加者たちが輪になって分け合って、その場で食事を共にしながら、歌や踊りを楽します。

「ゴーンカーオ祭り」は、かつては、チョンブリー市、シラチャ郡、バーンラムン郡、パナスニコム郡等でも行われていました。しかし、時が経つにつれて、次第にこの伝統行事は行われなくなりました。シラチャだけが、今でもこの祭りを継承し、独自の祭りとして定着させています。

シラチャでは、この行事を通じて、子供や若者、市民がタイ文化への意識を高めることを目的として、タイ衣装を着る習慣や伝統を次世代へ引き継ぐことに力をいれています。そのため、1993年にシラチャ市役所とタイの観光庁が共同して、ソクラーン祭りとはゴーンカーオ祭りを一つの行事として統合し、「ソクラーン・シーマハーラーチャー・パペーニー・ゴーンカーオ」と名付けました。

この祭りの期間には、多くの文化的活動や伝統的なパフォーマンスも催され、地域住民や観光客と一緒に参加して、様々な文化を体験できる機会となっています。





離任教職員のあいさつ

今年度末をもちまして、14名の教職員がシラチャ校を離任します。離任する教職員からのメッセージを掲載します。

倉 博之

4年の任期を終え間もなく帰任を迎えるにあたり、子供たちとの別れを惜しむ痛切な思いと共に、これまで保護者の皆様から寄せられた多くの励ましに感謝の気持ちでいっぱいです。子供たちとお世話になった皆さんのこれからは、豊かで幸せな時間となるよう、遠くの空からいつも祈っています。

清水 徹

暑い中一緒に乗った泰緬鉄道、踊って歌って盛り上がったレク、いつも楽しいお弁当タイム、一生懸命踊ったソーラン節、アイデア盛りだくさんの縦割り班、驚きと喜びをたくさんくれた日々の授業、たくさんのお大切な思い出をありがとう。また世界のどこかで会えることを楽しみにしています。

木村 久美子

「明るく・なかよく・たくましく」素敵な言葉だと、改めて感じています。新しい学びに目を輝かせ、朗らかに学校生活を送る子供たち。それを温かく見守ってくださる保護者の方々。このシラチャ校での出会いと学びに心から感謝しています。これからも、子供たちの更なる成長を楽しみにしています。

矢尾 みなみ

明るく楽しい校歌を歌うみなさんに驚かされた着任式から2年が経ちました。その歌声の通り、シラチャ校のみなさんは明るく元気でたくましい子供たちでした。シラチャ校でのみなさんとの楽しい思い出は私の宝物です。大好きなみなさん、これからもずっと応援しています。

田中 信裕

タイのシラチャ校での4年間は、周囲の温かい支えに助けられ、充実した時間を過ごすことができました。子供たちのあいさつや笑顔が、私の日々を明るく照らしてくれました。遠い日本からタイで過ごす皆さんをいつまでも応援しています。みなさん、「また世界のどこかで会いましょう！」

佐原 晃祐

シラチャ校で過ごした13年は、私にとってかけがえのない宝物です。子供たちとの何気ない日々がもう来なくなると思うと寂しいですが、それ以上に子供たちの未来が楽しみで仕方ありません。いつまでも応援しています。最後に、ここで出会うことができた皆さま、本当にありがとうございました。

工藤 隆太郎

シラチャ日本人学校。どこにあるの。海外の学校に行くなんて大丈夫かなと不安な気持ちで来タイしたお子さんも少なくないと思います。そんな子供たちが安心して楽しく学校生活を送れるようにと心掛けてきました。ここでの経験、思い出は宝物です。三年間ありがとうございました。

北原 教史

シラチャ校での3年間を通して、これまで知らなかった世界を見て、自分の見聞を広げることができました。在外ならではの悩みや困難な状況にも負けずに学習に取り組む子供たちに励まされ、本校の教育活動を温かく見守っていただいた保護者の方々に支えられ、任期を満了することができました。ありがとうございました。

成岡 浩

たいへんお世話になりました。シラチャで出会えた皆様に沢山お声がけ頂き、充実した3年間を過ごすことができました。私にとりましては、再び活気ある学校現場へ来られたことは、この上なく嬉しいことでした。皆様の今後益々のご活躍をお祈り申し上げます、お別れのご挨拶とさせていただきます。

杉村 健人

3年間の素晴らしい時間をありがとうございました。明るく・仲良く・たくましい子供たちに囲まれ、たくさんのことを学び、なにより笑い続けた3年間でした。タイで、シラチャで、シラチャ日本人学校で働くことができ、心から良かったと思っています。コップンカー！

橋本 宗樹

皆さんとともに過ごした時間は、私にとってかけがえのない宝物です。日々の学びや交流を通じて、皆さんの成長を間近で感じる事ができたことを嬉しく思います。皆さんのさらなる成長を心から楽しみにしています。3年間、本当にありがとうございました。

中村 美奈子

「みんなで合唱していいですか」と、肩を組んで笑顔で歌う姿。鍵盤ハーモニカで好きな曲を弾いてくれる姿。リコーダーは必ずみんなで集まって練習する姿。3年間、音楽って楽しいなと感じる日々でした。そんな気持ちになれたのは、みなさんのお陰です。ありがとう、そして、さようなら。

高橋 千里

シラチャ校の皆さんの燦爛と輝くタイの太陽のような笑顔とともに過ごした3年間は、とても素晴らしい思い出です。どこに行っても、心身の健康と周りの人への感謝の気持ちを大切にしましょう。シラチャ校に関わる全ての人の幸せを祈っています。ありがとうございました。

上記の先生方に加えて、JAMES POULTNE 先生も、今年度末をもって本校を離任されます。

